

表紙 「横浜金沢八景船屋」 (野鳥)

川野 奈津子 [三浦組 長願寺門徒]

東京都大田区蒲田に生まれる。
小学生の頃に「国際学童水絵展」にて受賞して以来、長年に渡り絵画を楽しんでいる。
「日本水彩展」、「上野の森美術館・日本の自然を描く展」で入選。
2014年には個展も開催した。
趣味のハイキングを縁に『新ハイキング横浜支部ニュース』の表紙を掲載し続け、
『新ハイキング』（新ハイキング本部発行）の口絵としても掲載された。

Shinran
850th
800th

—〈2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ〉—

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2022年8月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

「ネットワークナイン」班 編集員
総編集長：本田 彰一（東京1）副編集長：田上 翼（茨城1）
チーフ：中村 晃（茨城1）
佐々木誠信（東京4）朝倉 俊隆（東京5）五島 大地（東京8）小田 俊彦（茨城1）大山 信敬（茨城2）佐々木 萌（長野5）
チーフ：平松 正宣（東京3）
坂東 性悦（東京2）櫻田 純（東京6）秦 顕生（湘南）和田 祐樹（三浦）
チーフ：田宮 真人（東京8）
土岐 孝広（東京1）内藤 友樹（東京1）渡邊 尚康（東京3）鞠川 卓史（湘南）服部 崇一（湘南）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会
〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館
TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net

ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

もくじ

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業

- 03 教区お待ち受け大会を終えて 井上 真人

特集

- 05 教区お待ち受け大会

- 15 法語ポスター

教区教化通信 教区門徒会

- 16 教区門徒会研修会

教区教化通信 総合調整総務会

- 17 伝道講習会 修了者研修会 家本 久和

教区教化通信 研修部門

- 18 秋安居

教区教化通信 研修部門

- 20 聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

教区教化通信 大谷保育協会

- 22 子育ての大地 斉藤 信也

はい！こちら真宗会館です

- 24 駐在日記 佐々木 弘明

はい！こちら真宗会館です

- 25 所員のつぶやき 市野 潤

- 27 涌 本田 彰一

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていく

教区お待ち受け大会を終えて



教区慶讃事業企画運営委員会

お待ち受け法要部会委員

井上 真人 (茨城1組 勝願寺)

去る6月13日(月)、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」の東京教区お待ち受け大会が開催されました。今大会はご承知のとおり、インターネットを利

用しての配信(Zoom及びYouTube)

という新たな試みでもあり、一味違う緊張感のような高揚感のようなものを、それぞれが抱えながら当日までの準備を進めてきたように思います。参詣(視聴)いただいた皆様にとっても、様々な思いを感じられたことでしょうし、ある意味では昨今の時代を象徴した形でのお待ち受け大会となったのではないのでしょうか。

大会当日は、大谷暢裕門首をはじめ、内局を代表して尾畑英和参務に真宗会館にご来場いただき、また、記念講演の講師である池田勇諦先生(三重教区西恩寺前住職)には、ご自坊の西恩寺からインターネットを通じてご出講いただきました。過去に類を見ない新しい形でのお待ち受け大会であったにも

かわらずこうして開催できましたことは、関係各位のご高配とご理解のおかげであり、お待ち受け・法要部会一同、心より御礼申し上げます。

私は、お待ち受け大会の当日、ありがとうございました。池田先生がいらっしゃる西恩寺様にて聴聞させていただきました。配信業務が本務ではありませんが、先生の熱量と息吹を感じるその場に身を置かせていただいたことは貴重な機会を与えられたと思っています。

お待ち受け大会が終わり、池田先生にご挨拶させていただいた時の一言。「仏法のおかげさんであんたとも出遇えたんやなあ」——。遠路はるばるご苦労さんという労いの言葉に添えて、ぼつりとおっしゃっていただきました。何気ない言葉の中に、この上ない言葉がある。「回帰」や「举足一步」という法話中のお話しとも重なり、今もなお、その言葉の味わいを感じています。

慶讃法要のテーマである「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていく」。自己への内観を研ぎ澄ませたところで生まれたことの意味が見えてくるということ。容易ではありません。「仏」、「法」、そして「僧(サンガ)」とともにたずねていく、そういう

歩みへの讃嘆と覚悟がこもった池田先生の一言と受け止めさせていただきました。最後にありますが、莊嚴や仏華の拵えなど、多大なるご協力をいただきました西恩寺のご住職をはじめ門徒方に対し、心より御礼を申しあげます。



→西恩寺のお荘嚴。仏華は西恩寺のご門徒が立ててくださいました。

門首・参務も着用

「慶讃バンド」

東京教区お待ち受け大会に於きまして、大谷暢裕門首（写真右）、尾畑英和参務（写真左）にも「慶讃バンド」をご着用いただきました!!



みんなで付けよう!!

「慶讃バンド」

輪袈裟、畳袈裟、坊守草、肩衣に付けて慶讃法要を盛り上げよう!



東京教区ホームページ

宗祖親鸞聖人

御誕生

立教開宗

真宗大谷派（東本願寺）

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

50th

800th

「慶讃バンド」のPDFデータは東京教区ホームページよりダウンロードできます。どうぞご活用ください。



東京教区ホームページ

より一層の周知に資するため、慶讃バンドや着用している写真等を、「#慶讃バンド」を付けてSNSへ投稿をお願いいたします。



Shinran
500th
SS00

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

2022年6月13日(月) **LIVE** ライブ配信
13時30分開会 15時30分閉会

宗祖親鸞聖人
御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃法要

東京教区500カ寺からつながる
お待ち受け大会



2023年・春、真宗本廟（京都・東本願寺）において、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えするにあたり、「東京教区お待ち受け大会」を厳修いたしました。新型コロナウイルス感染症を考慮し、企画段階から「東京教区500カ寺からつながる」をコンセプトに、完全オンライン配信という、過去に例を見ないお待ち受け大会となりました。

当日は、大谷暢裕門首をはじめ、内局を代表し尾畑英和参務のご出向、ならびにご挨拶を賜りました。また、記念講演の講師であります池田勇諦先生は、自坊の西恩寺（三重県桑名市）よりお話いただき配信いたしました。

今号では配信の拠点となりました真宗会館の様子、また各寺院でご門徒と共に視聴参拝を行ったサテライト会場インタビュー記事を掲載いたします。なお、次号にて池田勇諦先生の記念講演を掲載いたしますので、お楽しみに。

教区お待ち受け大会スナップ写真



- ① 門首挨拶
- ② 尾畑参務挨拶
- ④ 柴崎光副委員長 閉会挨拶
- ⑦ 記念講演を聴聞する門首

- ③ 渡辺智香委員長 開会挨拶
- ⑤ ⑥ 池田勇諦氏 (西恩寺より配信)
- ⑧ 司会とスタッフの連携



⑤



⑥



⑧



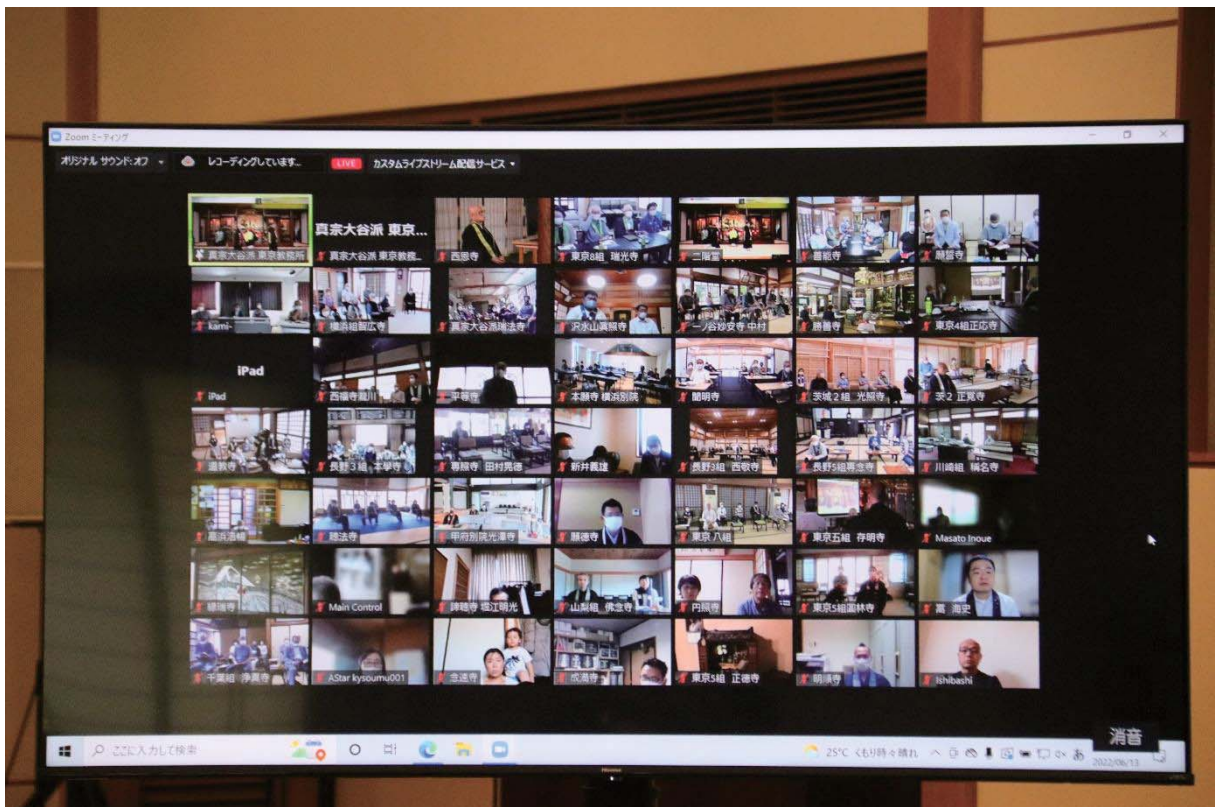
⑦

東京教区500カ寺からつながる お待ち受け大会

「東京教区500カ寺からつながる」というコンセプトが掲げられ勤務された、今回のお待ち受け大会。教区内各寺院からは、Web会議ツールZoomを利用した視聴参拝を推奨し、各寺院に集まった人たちの顔ぶれを少しでも画面を通して共有することで、せめてもの「東京教区お待ち受け大会」の一体感を作ることができたように思います。また、このお待ち受け大会は、東京教区内にとどまらず、教区を越えて、宗派を越え、国を越えての視聴参拝を願い、YouTubeによるライブ配信も同時に行われました。

今回のお待ち受け大会では、Zoomでの視聴参拝は100カ所近くの会場と繋がることができ、YouTubeによるライブ配信の最大同時視聴者数は約300人、アーカイブの視聴回数は2500回を超えました（7月13日現在）。

今号では、寺院を会場にご門徒と共に視聴参拝を行った、東京5組西福寺、横浜組智廣寺、長野3組西敬寺に『ネットワーク9』編集員がお邪魔をし、取材させて頂いた記事を掲載いたします。また、残念ながら取材に行くことができなかった寺院からも、お待ち受け大会に際しての集合写真などをご提供いただきましたので、あわせて掲載させていただきます。



東京5組 西福寺

お待ち受け大会を今回オンラインで視聴された感想をお聞かせください。

ご門徒A おかげさまで、このような大きい画面を用意していただいて、お寺の本堂で参加できたことは、大変ありがたいことだと思っております。ただ、真宗会館で行ってほしかったという思いもあります。

ご門徒B 今回の参加人数から考えると、門徒全体に今回のお待ち受け大会が認識されていないのではないかと感じました。お待ち受け大会が開催される意図がうまく伝わっていないことも要因なのかもしれません。個人的には組も教区も、以前の方が催事に対して熱気を持っていたように思います。

ご門徒C 凄くよく出来た法座なのに、もったいないと感じました。Zoomで視聴していましたが、家でYouTubeを見ているのとあまり変わらなかつたと思います。お互いに繋がっているから、画面上でも話ができ

る時間があると嬉しいですね。画面に知っているお寺さんが写っていました。名前を見るだけでお話し出来なかつた事が寂しく感じました。

ご門徒D いい企画でしたが、何故、月曜日にしたのかと思います。阿弥陀さんにする機会をいろんな人に与えてほしいと思いました。

今回のお待ち受け大会を迎えた感想を瀧川住職にお伺いしてもよろしいですか？

瀧川住職 来年2023年には「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」が真宗本廟で勤まります。法要に対しての「お待ち受け」ということですので、法要への機運を高めるといことはお寺の行事がある度に、ご門徒にお伝えはしていました。

しかし、今日のことから、お待ち受け大会や慶讃法要への願いなどが十分に伝えられていなかったというのを感じます。ご門徒さんに住職としてお伝え出来ることはお伝えしつつ、ご門徒が分からないことがあれば一緒に考えていきたいと思えます。

またオンラインだけでの開催ですと、人と実際に会えていませので、盛り上がりに欠けるといふところがあると思えます。お寺という所は、ご門徒と日常的に出会いつつ、会話や聞法をしていく場所であるということもこれからも伝えていかなければならないと思えます。
(取材/土岐孝広・五島大地)



お勤めの様子



法話のメモを取るご門徒



お待ち受け大会を視聴している様子

横浜組
智廣寺



当日は10名のご門徒が参加されました



橋本住職



早乙女さん

【ご住職へのインタビュー】
コロナ禍以降の様子や本日のお待ち受け大会の感想等を教えてください

橋本住職 コロナ禍以降、自坊の定例会の後についても行なっていた懇親会ができなくなりました。残念ですね。大人数でワイワイ過ごす時間がとても大事な交流の場になっていたので、なんとか再開できないかなと思っています。

今日のお待ち受け大会は、定例会メンバーの方たちに声をかけて参加して頂きました。慶讃法要をお迎えする受け止め方は、人によって温度差があるのではと思います。しかし、今日の講演の中で「慶讃」の意味について押さえていただいたことで、ご門徒方も、また私自身も、改めて「そういう意味なんだな」と、その意味を受け止め直すことができ、慶讃法要に対する意気込みや熱意が上がったと感じています。

今後、ご門徒との結びつきや繋がりを大切にしながら、定例会や慶讃法要への声かけなど、積極的にしていきたいですね。

【ご門徒へのインタビュー】
本日のお待ち受け大会の感想を教えてください

早乙女須洋さん 月2回の定例会に参加している中で今回のお待ち受け大会があることを教えてもらいました。今回はオンラインでの法要となりましたが、以前のように東京教区の皆さんが集まって聞法するのが本来の姿だと思いました。ですが、世の中がオンライン化に進んでいるのでお寺の法要もオンラインで開催するのは仕方ないことだとは思っています。

お待ち受け大会をお迎えするにあたって、立教開宗がどのような根拠で八百年とされるのかということを考えていましたが、本日の池田勇諦先生の講演を聞いていろいろと教えていただきました。また、お寺で聞法をしていくと、ふと何かあったときに自分の煩惱に振り回されていることを感じる場合があります。講演の中でも緊張感という話がありました。緊張感を持つということをお話にしなければいけないと感じ、丁寧な生活を心がけていきたいと思いました。

(取材/田上翼・小田俊彦)

長野3組 西敬寺

今回、長野3組では組をあげて教区お待ち受け大会にサテライト形式で参加し、会場の一つとなった西敬寺の大広間には10数名のご門徒が集まりました。閉会后に、西敬寺のご門徒4名から、座談のような雰囲気の中でお話を伺いましたのでご報告いたします。

◇池田勇諦氏のお話を聞いて

ご自宅に門徒宅用掲示板を設置していると、長谷川俊夫さんは、池田先生のご法話を受け、「立ちすくむ その時々 射す光」という一節を挙げて「これは素晴らしい言葉」と、しみじみと述べておられました。

西敬寺の歴史について熱弁してくださいました長瀬哲さんは、「今日のお話は真宗の勉強をたくさんしていなければ難しいと感じる部分もあった」としながらも、「自我に立つか、仏智に立つかの間での『緊張感の歩み』が与えられていく」という言葉が印象深かったと仰っていました。

また、先生の『慶』は教えに遇えた喜び、『讚』はそれを伝える責任」とのお言葉に、

「とても大事なことだね」と4人で確認するように頷き合っておられました。



◇サテライト開催について

清水のり子さんは、今大会がサテライト形式で行なわれたことについて「遠方の先生のお話が聞けて良かった」とした上で、「この後、『今回はこういう形で行ないました』と寺報などで紹介することが出来たら、若い人たちにもお寺を身近に感じてもらえるきっかけになるかも知れない」と提案されました。

コロナ以前は月に一度の同朋の会に参加していたという上松久子さんは、「久しぶりにお寺へ来てお話を聞けて有難かった」と嬉しそうに語り、「年を取って遠出がしにくいとい

うこともあるから、これからはこういう形も大切だと思う」と話しておられました。

最後に岩倉彰恵住職から、「今回、教区内をオンラインでつなぐ試みを折角やってみたのだから、慶讃法要の期間中にも本山に参拝出来る方は参拝し、上山することが叶わない方は手次のお寺で一緒に参りする。教区からもそういったサポートをしてもらえたら有難いと思います」と、オンライン開催についての前向きなご意見をいただきました。

取材にご協力を賜りました西敬寺様および長野3組の皆様、誠に有難うございました。

(取材/佐々木萌、田宮真人)



奥より
長瀬さん 清水さん 上松さん 長谷川さん

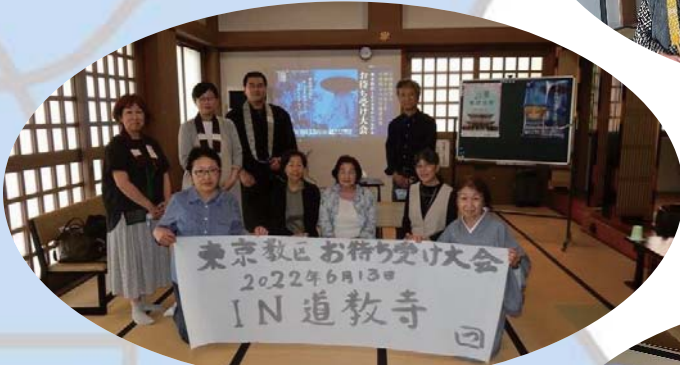
東京教区 500 カ寺からつながる
寺院の視聴参拝



茨城1組 妙安寺 (一ノ谷)



茨城2組 聴法寺



東京5組 道教寺



東京1組 本明寺



東京5組 西福寺



長野3組 西敬寺



長野5組 宝栄寺



東京7組 瑞法寺



東京5組 存明寺



東京4組 専行寺



横浜組 智廣寺

Tokyo サンガ9による 合唱

※感染対策により

事前収録を行いました



Shinran
500th
S100

南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

宗祖親鸞聖人
御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃法要

東京教区500カ寺からつながる

お待ち受け大会

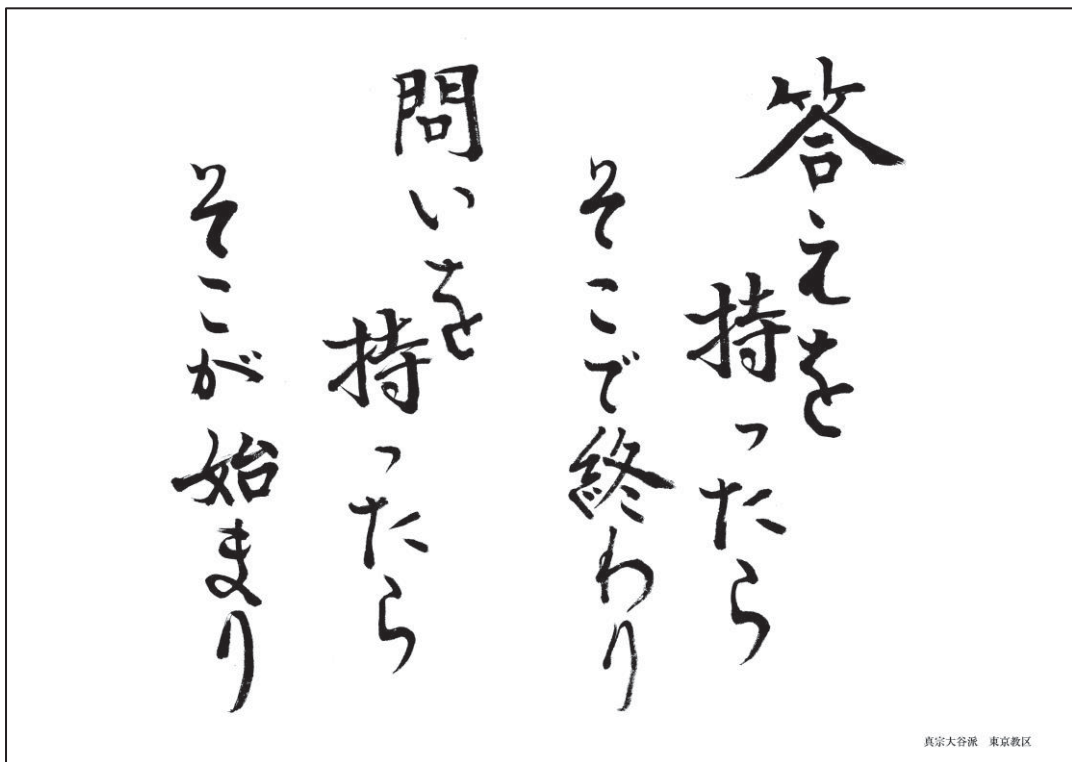
2022年6月13日(月)  ライブ配信
LIVE 13時30分開会 15時30分閉会



教区お待ち受け大会はYouTubeにてアーカイブ視聴することができます。左のQRコード、もしくは教区HPからどうぞ。

https://www.youtube.com/watch?v=k_aIMpWkg_I

今月の法語



書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。
詳細は東京教務所まで。

教区教化通信 教区門徒会

教区門徒会研修会



2022年4月22日(金)～23日(土)の1泊2日の日程で、長野市内において、教区門徒会員を対象に、「同朋会運動の願い」をテーマに、2021年度教区門徒会員研修会を開催した。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響によりオンライン講義による開催であったため、2年ぶりのフィールドワークや宿泊を伴った研修会となった。

また、本研修会は、新型コロナウイルスの状況に鑑み、講義のみのオンライン参加も可能とし、26名が参加した(現地19名・オンライン7名)。

1日目は、長野1組長野教会から隣接する善光寺を参拝。善光寺では、7年に一度の御開帳にあたり、多くの参拝者で賑わう中、親鸞聖人のお花松や爪彫阿弥陀如来といった足跡を訪ねた。

その後、長野1組明行寺にて、住職の柴田

崇氏より「同朋会運動の願い」を講題に、講義①をいただいた。柴田氏からは、ご自身の歩みや自坊での同朋の会の取り組みを通し、同朋会運動についてお話しいただいた。

2日目は、長野1組光蓮寺にて、住職で長野1組組長である井上英実氏より「同朋会運動と部落差別問題」を講題に、講義②をいただいた。井上氏からは、部落差別の歴史について、何が問題であり、どういった方が差別されていたか、同朋会運動ではどのように取り組まれたかお話しいただいた。

参加者からは「年に2回開催してほしい」「2年ぶりに会えた方もとても嬉しかった」などの声があった。



伝道講習会 修了者研修

5月24日～26日（2泊3日）に亘り、「伝道講習会修了者研修」が開催されました。本

研修は、修了者の継続的な学びの場として、隔年で開催されている学習会（前年は本講を開催）であり、道場長に本多雅人氏（東京2組蓮光寺住職）、講師に松井憲一氏（元大谷大学非常勤講師）をお迎えし、「慶讃テーマ」、「立教開宗」について、参加者が自分の言葉で語り合うことに重きを置いた学びの場となりました。

【松井憲一氏】



【法話（家本氏）】

「伝道講習会修了者研修」を終えて

横浜別院 家本 久和

私は、今から14年前に第16期生として、伝道講習会を受講させていただきました。今回の修了者研修には、数年ぶりに参加させていただきました。群馬県の沢渡温泉「宮田屋旅館」を久しぶりに訪れ、当時のままの原風景を懐かしく感じました。さて、今回の研修会のテーマは「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」ということで、慶讃テーマについて、朋友と共に語り、学びを深める場となりました。研修内容としては、参加者3名からの法話、全体座談、松井憲一先生講義、本多雅人道場長講義等、限られた時間の中で充実したプログラムでした。

研修会に参加するにあたり、私は事前に法話のご依頼を受けていましたので、諸先輩方を前にしてどのようなお話をすれば良いのか、研修会前日まで非常に悩んでいました。

ですが、道場長からは、「慶讃テーマも、著名な先生の言葉を鵜呑みにすることなく、疑問を持ちつつ、聞法の歩みを通して、テーマに向かい合っていくという姿勢を大切にしていって、共に語り合っていきたいと思えます」という言葉をいただいておりますので、その願いを形にするような法話を思案しました。当日の法話は、慶讃テーマの趣旨（本山ホームペーJより）を手掛かりとして、今の自分の素直な気持ちを表現し、精一杯お話させていただきました。引き続き、法話に対する合評も皆様からいただき、今の自分の立ち位置を見つめ直し、内観する機縁ともなりました。

この紙面スペースでは、研修内容を語り尽くすことはとても困難ですが、いつでも私を含む伝道修了者の皆様が立ち返る場所が存在していることの大切さ、有り難さを、今一度思い起こさせていただいたことに、阿弥陀様への報恩感謝の想いがしました。 合掌

◆ 今後の予定 ◆

伝道講習会学習会「業縁の会」

期日 2022年10月5日～6日

場所 東京2組 蓮光寺（予定）

※詳細は改めてご案内いたします。

教区教化通信 研修部門

秋安居 報告 第1回 (全4回)

講師：延塚 知道師 (2021年度安居本講講師)

講題：『大無量寿経』講讃—宗祖の視点で下巻を読む—



■『大無量寿経』の構造と真仮八願

『教行信証』は四十八の本願が説かれている『大無量寿経』(以下『大経』)を標挙に掲げ、中でも親鸞は「真仮八願」、八つの本願を取り上げている。『大経』は、

(述文賛) 憬興師の云わく、如来の広説に二あり。初めには広く如来浄土の因果、すなわち所行・所成を説きたまえるなり。後には広く衆生往生の因果、すなわち所摂・所益を顕したまえるなり。

〔真宗聖典〕一八二頁

とあるように、上巻は如来浄土の因果、なぜ浄土が建てられたのが説かれ、下巻は衆生往生の因果、衆生がその浄土にどうしたら往生できるかが説かれている。

上巻には、『教行信証』「真仏土巻」の標挙である

第十二・光明無量の願成就文

〔真宗聖典〕三〇頁

／科文番号三七〇三九

第十三・寿命無量の願成就文

〔真宗聖典〕三一頁

があり、下巻には、「証巻」の標挙である

第十一・必至滅度の願成就文

〔真宗聖典〕四四頁

「行巻」の標挙である

第十七・諸仏称名の願成就文

(前同)／科文番号六七

「信巻」の標挙である

第十八・至心信樂の願成就文

(前同)／科文番号六八

三輩章では、「化身土巻」の標挙である

第十九・至心發願の成就文

〔真宗聖典〕四四頁

／科文番号六九〇七二

「東方偈」の後には、「証巻」の標挙である

第二十二・還相回向の願成就文

〔真宗聖典〕五一頁

智慧段では、

第二十・至心回向の願成就文

〔真宗聖典〕八一頁

／科文番号一八〇一〜二〇二二〇一（二二）
がある。

『大無量寿経』講讃―宗祖の視点で下巻を読む
一〜二二二頁の表参照

■『教行信証』が著された背景

この『大経』の本願の救いを背景に、諸行を廃して、『観無量寿経』（以下『観経』）の称名念仏一つを立て、「称名念仏によつて、凡夫のままに成る」と説き、『選択本願念仏集』（以下『選択集』）を著した法然は、既成の仏教教団から反駁され、そして明恵が書かれた『於一向専修 宗選択集 中摧邪輪』により、菩提心を否定した仏法の怨敵だと批判された。

このような外の状況に加え、法然の門弟はほとんどが聖道門の学僧で、「信心行両座の決判」や「信心同一の問答」からわかるとおり、信心の真仮を明確にすれば浄土門の内部分裂が必然である状況を見て、敢えて信心の真仮を峻別せず、称名念仏の方によつて門下全体を包もうとされた。しかし、後に一念多念の異義を生むこととなり、このような内外の状況に应えるため、親鸞は『教行信証』を著し

た。

■親鸞の『大経』の読み方

親鸞が選ばれた真仮八願は『大経』に全て成就文がある。それは

しかるに愚禿、積の鸞、建仁、辛の酉の歴、雑行を棄てて本願に帰す

（『真宗聖典』三九九頁）

と、法然と出遇った回心の感動を通して、成就に立つて因願を選び、各巻の標拳にされたからである。つまり、親鸞は下巻に立つて上巻を読むという方法で、徹頭徹尾『大経』に立つ仏者として『教行信証』を著した。

■『教行信証』後序―師資相承

『選択集』の書写が終わった元久二年四月十四日より、法然の御真影の図画が完成される閏七月二十九日までのほぼ百三十日の間、『観経』の称名念仏一つに立った法然と『大経』の信心に立った親鸞が、互いに本願の智慧に立つて、そして分別の迷いを破つて、本願の義理が精神に貫徹するまで、師弟の間で徹底的に議論が続けられたと考えられる。そして、称名念仏一つで浄土教独立に命を

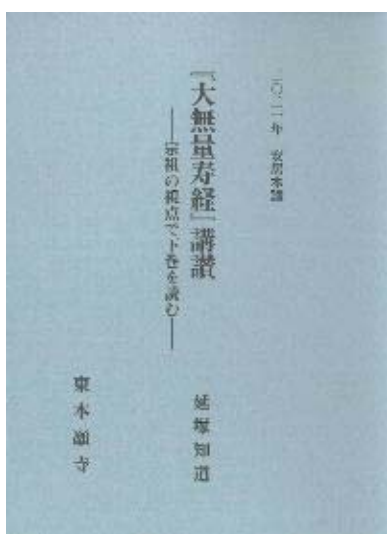
捧げた法然は、親鸞に『大経』や天親・曇鸞によつて本願の道理を開顕していく仕事をおそらく託され、その師資相承によつて命がけで著された書物が『教行信証』である。

2021年安居本講
『大無量寿経』講讃

―宗祖の視点で下巻を読む―

著者：延塚 知道

価格：3,850円



※お問い合わせは東京教務所（担当：渡邊楽）まで

教区教化通信 研修部門

聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

講師…一楽 真 氏（大谷大学学長）

開入本願大智海 行者正受金剛心
慶喜一念相應後 与韋提等獲三忍
即証法性之常樂

（書き下し文）

本願の大智海に開入すれば、
行者、正しく金剛心を受けしめ、

慶喜の一念相應して後、
韋提と等しく三忍を獲、

すなわち法性の常樂を証せしむ、といえり。

『真宗聖典』二〇七頁

「韋提と等しく」ということで、『觀經』を見てみますと、「亦令未來世」という言葉が何度も出てきます。初めに出てくるのは、

その時に世尊、韋提希に告げたまわく、
「汝いま知れりやいなや、阿弥陀仏、此を去りたまふこと遠からず。」

『真宗聖典』九四頁

のところですが、ここは、『觀經』では初めてお釈迦さまが言葉を発せられるところですが、その前につこり微笑まれたという一段があります。なぜ微笑んだのかというと、韋提希に對していろいろな仏さまの国を見せたのです。それに対して、韋提希は「私は阿弥陀の国ではないと、たすかりません」ということを言うのです。「どの国も光り輝いていますますが、私は阿弥陀の極樂世界を願います」と言ったので、それで、お釈迦さまはよくぞ気がついてくれた、よくぞ阿弥陀の国を選んでくれたというお心でにつこりと微笑むわけです。それ

で、阿弥陀にどうやったら遇えるかということに對して、「韋提希よ。阿弥陀仏は遠くにいるのではありませんよ」と。「去此不遠」、「此を去りたまふこと遠からず」というお言葉です。『阿弥陀經』では「過十萬億土」と書いてあるわけです。しかし、『觀經』では「此を去りたまふこと遠からず」と書いている。『阿弥陀經』では、十萬億の国を過ぎたところと書いてあり、『觀經』は遠くないと言っているのです。どちらがほんとうですかとたまに言われます。

我々の根性からすれば、阿弥陀の国というのは一番遠いでしょう。なぜなら誰もが平等にたすかる世界です。そんな国は願いませんよ。あなただけ特別だと言われれば、すぐに行く気になるけれども、皆平等に行くのです。私が行くのはわかりませんが、あの人も行くのかという根性がおきます。だから我々の根性からは、阿弥陀の世界は最も遠いと言わなければならない。それが「過十萬億土」です。ところが、本当に求めている人間には遠くない。ある意味で、足下にあるのが阿弥陀の世界なのです。もうあなたのように来ていますよ。これが「此を去りたまふこと遠からず」です。面白いのがその後で

す。阿弥陀を願いなさいと言うその時に、

「いま汝がために、広くもろもろの譬を説かん。また、未来世の一切の凡夫の浄業を修せんと欲わん者をして、西方極楽国土に生ずることを得しめん。」

(前同)

と言います。韋提希に説いているのに、「未来世の一切の凡夫」のために、と出てくるのです。韋提希はびつくりでしょうね。自分が教えてほしいと言ったことに対しての説法であるならわかりますが、あなたにも説くけれども、未来の凡夫にも説きますよということをお釈迦さまはおっしゃるのです。

これがさらに、次の一段になりますと、

仏、阿難および韋提希に告げたまわく、「諦かに聴き、諦かに聴け。善くこれを思念せよ。如来いま、未来世の一切衆生の煩惱の賊のために害せらるる者のために、清浄の業を説かん。」

『真宗聖典』九四〜九五頁

と、こう言われます。

誰のために説くのかと言えば、「未来世の一切衆生の」煩惱に害せられている者、それを放っておかないと言うわけです。このように、お釈迦さまは重ねて未来世、未来世と言うも

のですから、韋提希は最後にどうなるかというところ、

時に韋提希、仏に白して言さく、「世尊、我がごときは、いま仏力をもつてのゆえにかの国土を見つ。もし仏滅の後のもろもろの衆生等、濁悪不善にして五苦に逼められん。いかにしてか当に阿弥陀仏の極楽世界を見るべき」と。

『真宗聖典』九五頁

と、「私は、お釈迦さまのお力によって、仏の力をもつて阿弥陀の世界を見ました」と言います。そして、「お釈迦さまに遇えない人はどうなるのですか」と、こういう心が韋提希に湧いてくるのです。お釈迦さまが、未来世の凡夫のために説くぞと言ったものだから、「お釈迦さまに遇えた私は直接に教えていただけのだからいいけれども、お釈迦さまに遇えない人はどうなるのですか」という問いが出てくるのです。その問いに対して、説法が始まるのです。ここからが「正宗分」であります。

善導大師はここまでを「序分」にして、この後を「正宗分」にしています。善導の区分けによって、『観経』が誰のためかということが明確になるのです。一言でいえば、仏滅後

の衆生のための経典なのです。お釈迦さまに遇えない人に、阿弥陀の世界を見る方法を教えてくれている経典なのです。

韋提希は目の前にいる相手ではありませんけれども、韋提希だけの救いを説いている経典ではないということ、これがとても大事です。それを善導は、自分も仏滅後の凡夫という立場からこれを聞いていきました。それを受け取ったのが、法然、親鸞という人ですよね。だから善導によれば、韋提希はお釈迦さまに直接遇って、阿弥陀にまみえるということが起きましたが、お釈迦さまに遇えないところにも道はあるということ言うわけです。これが「正信偈」で「韋提と等しく」ということがわざわざ言われる意味です。

(文責 研修部門)

今後の聖典学習会の日程

- ① 8月25日(木) 13時〜17時
- ② 10月14日(金) 13時〜17時
- ③ 12月9日(金) 13時〜17時

※日程は変更となる場合があります。

※お問い合わせは東京教務所(担当:渡

邊楽)まで



「みほとけさまにみまもられ」

本園は昭和 35 年に真教寺の境内に開園しました。当時、大規模団地として話題になったひばりヶ丘団地が近隣に出来、多くの人に移住してきました。その中に幼稚園の先生をされていた初代園長小野喜代子先生がおられ、当寺の住職と相談をしてお寺に幼稚園を開くことになりました。



小野喜代子先生は仏教にもご縁があり、現在まで続く本園の仏教保育の形を作られました。その中に「おちかい」というものがあります。毎週月曜日に全園児がホールに集まり、「おちかい当番」の園児が園長と一緒にご本尊さまの前に立ち、みんなで手を合わせ、お当番さんが先導して「おちかい」のことばを唱和します。

毎週みほとけさまの前で手を合わせた事は園児達の心に残っていくようで、卒園した子ども達は幼稚園での思い出としてよく「おちかい」の話をしてくれます。先日もお寺でご法事をされた方が幼稚園が出来た頃の卒園生で、「おちかい」は今でもやっているのですかと尋ねられ、はいと答えると懐かしそうに「今ではこんな大人になってしまったけれど、おちかいをしてみほとけさまに手を合わせていたんですよ」と話してくれました。

「おちかい」のことばは次のようなものです。「わたくしたちは、みほとけさまのおしえにしたがって、よいことをすすんでし、わるいことをあらため、みんななかよく、よいこになることを、おちかいたします。道徳的な印象もありますが、仏さまが私達にかけている願い、仏の誓いとして頂きたいと思っています。子ども達には「おちかいのことばのようにはなかなか出来ないのが私達ですが、みほとけさまはいつでもどんな時でも私達の事を見守って、こういう子になって欲しいと願って下さっていますよ」と話しています。

本園の園歌には「みほとけさまにみまもられ、のびのびすくすくそだちます」とあります。大人も子どももみ仏さまに見守られ、共に育ちあう場でありたいと思っています。

宗教法人 真教寺
ひばりヶ丘幼稚園
(東京都西東京市)

園長 齊藤 信也



mp

**混声合唱団
TOKYO
サンガ9**

トウキョウ
ナイン

団員募集中♪

仏教讃歌の混声合唱団です。
定期的に練習し、教区報恩講、
教区同朋大会、その他演奏会で
披露しています。
お問合せ、入団希望の方は、下
記までお気軽にご連絡ください。

♪お問合せ♪
〒177-0032
東京都練馬区谷原1-3-7
Tel 03-5393-0810
東京教務所(担当:渡邊誉・渡邊楽)

mp

NEW

「掲示伝道ポスター」

ミニ

ポストカード

2017年度 A・B (2種類)
2018年度 A・B (2種類)
2019年度 A・B (2種類)
2020年度 A・B (2種類)

■各100円
各6枚入
簡易スタンド付き
はがきサイズ
送料250円
(場合によって500円)

人生は
生涯きかけ
ひとり旅
どこに向かい
どいて帰るのか

東京教区教化委員会広報出版部門では、毎年掲示板に掲示いただくための「掲示伝道用ポスター」を発行しております。
このたび、生活の中でより身近に言葉に触れていただけるように、**ポストカードサイズ**の「掲示伝道用ポスターミニ」を発行いたしました！
ご寺院での行事の際に、ご門徒への記念としていかがでしょうか？
お申込み：東京教務所 (TEL03-5393-0810/担当:海) まで

はい！こちら真宗会館です

駐	在
日	記

駐在からひとこと

写真：サツマイモの苗植え
(群馬組了覚寺子ども会手伝いにて)



東京教区駐在教導

佐々木 弘明

「あとどのくらい…」

諸般の事情により、家族と約10日の間、家で過ごす時間ができた。家族とは毎日顔を合わせていたが、普段の生活では、24時間一緒にいることはないのではないかと思った。

そんなことを考えていたとき、数年前のテレビ番組で「自分の親とあと何年一緒に時間を過ごすことができるか」ということに対して、学者の方が、様々なデータから数式を作り、計算していたことを思い出した。

そこから割り出された時間として、親が平均寿命(85歳くらい)まで生きたとして、一生で親が子どもと過ごす時間について、母親が7年6ヵ月分。父親が3年4ヵ月分ということで、そのうち、子どもが幼稚園入園時でその3割、高校卒業で7割の時間が過ぎているということだった。

また、その数式によると、これから親と過ごせる日数について、例えば、親と

別居して住んでいると、実家に帰るのが、正月3日・お盆3日、計6日で、そのうち24時間一緒にいるわけではないので、食事などで一緒にいる時間が、平均4時間とすると、6日×4時間で1日分となるので、親がこれから生きるだろう年数＝日数となるということである。

この数式に自分自身のことを当てはめて考えてみると、両親と過ごせる日数は10日(240時間)程度となる。私が娘と息子と過ごす時間についても、3年4ヵ月分の4割程度は過ぎてしまっている。

あくまで数値の上のことで、縁によっては、いつ何が起こるか分からないが、まだまだあると思っていた大切な人と過ごす時間が、本当はあまりないのではないかと、数字を見ることで感じた。

だからこそ、大切な人と過ごす「今」を大切にしたいと思う。

はい！こちら真宗会館です



首都圏教化推進本部

推進委員

市野 潤

担当：真宗会館部門

最近読んだ本：水中の哲学者たち



今年4月より首都圏教化推進本部推進委員として勤めています、市野潤と申します。わからないことも多々ある中で諸先輩方のご指導をいただきながら、あっという間に3ヵ月がたちました。様々な方々とのかかわりの中で、学びや経験の機会をいただいております。

最近、本を読む機会が増え、わからない言葉がいくつか出てきたので、ふと「国語辞典」が欲しくなりました。ググれば、言葉の意味なんて調べられるじゃないかと言われそうですが、思い立っておそらく20年以上ぶりに購入しました。購入した国語辞典の決め手は帯の言葉です。「時代（いま）を写す辞書 辞書は“かがみ”」というフレーズです。驚いたことに、辞書自体も8年ぶりの全面改訂で3,500の新語があるそうです。

新語の例は、アウティング/ESG/犬笛/陰キャ/ウェビナー/受け子/遠慮のかたまり/おれがおれが/カオ

マンガイ/ガテン系/壁打ち/完コピ/完登/完母/聞けば/ギャン泣き/きゅんきゅん/きょうイチ/くるりんぱ/香書/ごはん屋/災後/刷成/CV/自分事/主語が大きい/世界線/洗口/センベロ/ソーシャルディスタンス/即食/即完/たるたる/ツブブロック/DMAT/ディストピア/テンプレなどです。皆さんはどのくらいの数の言葉をご存じでしたか？

私は半分以上わかりませんでした。ここで私が大事だと感じたことは「時代（いま）を写す辞書 辞書は“かがみ”」というフレーズのとおり時代に応じて言葉が新しく生まれ、実際に前回の辞書から約1000の言葉が使われなくなったということです。言葉がそのような時代の変容を写し出す「かがみ」であると同時に、どれだけ時代が変容しても変わることのない「ことば」があることを知り、言葉の意味合いに限らず、その言葉の背景を改めて考えていくことも大切だと感じました。

人事異動



【離任】

藤井 晃世

首都圏教化推進本部推進要員 ↓ 三重教区駐在教導

(2022年7月1日付)

次号にてご挨拶を掲載させていただきます。



教区の情報をおあなたに あなたの声を教区に!!

一緒にネットワーク9を作りませんか?

編集員募集中!!

Network 9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

取材、原稿執筆、校正、デザインなど、紙面作りに関するすべてを行います。お寺の新聞やチラシを作る時のスキルも学べるかもしれません。パソコン初心者の方でも大歓迎です。先輩編集員が丁寧にご指導します。一緒に楽しいネットワーク9を作っていきましょう。興味がある方、お問合せは東京教務所（担当：佐々木）まで

ネットワーク9へのご意見・ご感想をお寄せください
〒177-0032 東京都練馬区谷原1-3-7 東本願寺真宗会館内 東京教務所
【電話】(03)5393-0810 【ファックス】(03)5393-0814
【mail】nw9@ji-n.net



敬弔

千葉 進 様

東京8組 専福寺 住職

6月2日命終 73歳

天野 龍夫 様

茨城1組 覺照寺 前住職

6月3日命終 93歳

安藤 薫 様

東京1組 善照寺 前坊守

6月27日命終 93歳

生前のご功勞を偲び、
念仏合掌して哀悼の意を表します。

6月末日届出迄

涌ゆう

編集員の随筆



青い空、白い雲、右手に富士山、車内販売。そうです。今、京都に向かう新幹線の中です。音楽を聴きながら、サンドイッチを片手にコーヒーを飲み、たまにパソコンに向かいカタカタと。片道2時間と少しの時間を過ごしている。「おのおの十余か国のさかいをこえて、身命をかえりみずして、たずねきたらしめたまう御こころざし」など微塵もない自分に落胆する。

お待ち受け大会を終えて、「いよいよ慶讃法要をお迎えするんだ」という意気込みと、「慶讃法要とは？」という疑問符の狭間にいることを自覚した。池田勇諦先生の「慶は教えに遇わせて頂いた慶び。『讚』は教えに出遇った責任」という記念講演の言葉を思い出す。親鸞の誕生がなければ、親鸞が真宗を顕かにする歩みをしなければ。それだけではない。親鸞の誕生を慶び、親鸞が顕かにした真宗の

教えに出遇い慶び伝えてきた先達がいなければ。御誕生八百五十年・立教開宗八百年という数字は過去の偉人、偉業を讃えるものではなく、私のところまで届いた真宗の歴史そのものである。その歴史に参画できる慶びと、その責任が私に押し掛かっている。そのことに十分に応えられるかわからないが、もし私とその道を違えたとしても、真宗の歴史は私一人の間違いを見事に修正してくれる力があると信じている。ただ慶讃の思いを胸に、ただ念仏、ただ慶讃事業に邁進あるのみ。

まもなく京都に着く。何とか原稿を書き終えパソコンをしまう。京都の空も青い。おそろく暑いだろう。ある人が「東京の暑さは暴力的。京都の暑さは拷問的」と表現した。新幹線を降りて思わず納得。御影堂で手を合わせて、いざ会議に向かう。

(東京1組 本明寺 本田 彰一)